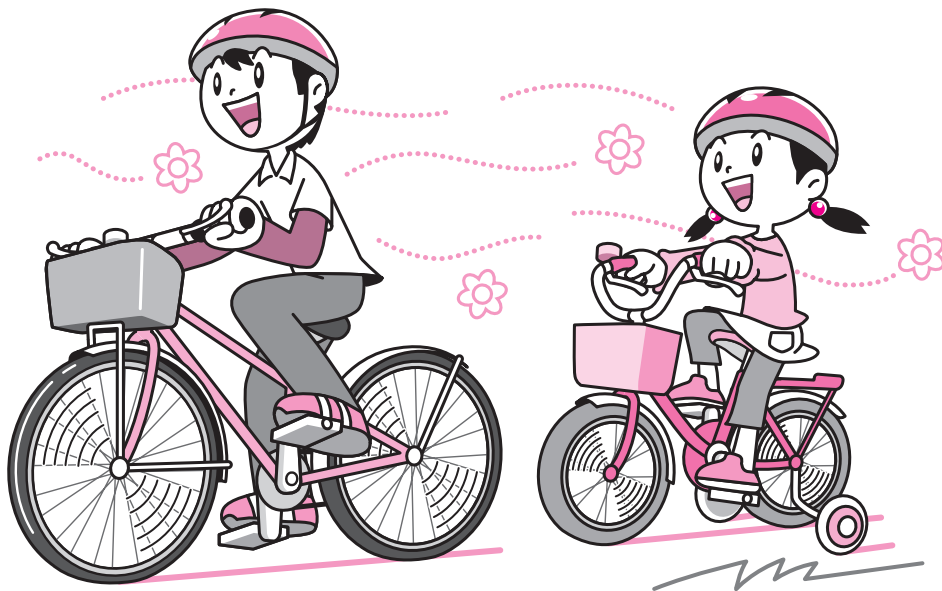


取扱説明書（ジュニアサイクル編）

このたびは当社の自転車をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

警告

大人が利用した場合、車体や部品が変形したり破損するなどして、事故・けがをするおそれがあります。大人は乗車・利用しないでください。



自転車のイラストは代表例です

取扱説明書および品質保証書について

- ご使用の前に必ず本取扱説明書と品質保証書（別冊のロビンフッド手帳）をお読みください。お読みになった後は大切に保管し、必要に応じてご活用ください。
- 品質保証書は「販売店名」が捺印され、「販売日・車体No」が記入されていることを確かめて、販売店からお受け取りください。
「販売店名」の捺印、及び販売年月日の記入がありませんと、品質保証書は無効になります。捺印、記入がない場合は販売店にお申し出ください。
「車体No」の記入がもれている場合は自分で記入しておいてください。「車体No」は防犯登録カードにも記入されています。
- 防犯登録を必ず販売店で行ってください。法律により、義務づけられています。
- 乗る前の「日常点検」と販売店に願う「初回点検・定期点検」を必ず実施してください。自転車は使用に伴い、必ず傷んだり、ネジが緩んできます。これらを放置して使用を続けると、重大な故障につながります。
- お求めになった自転車にあてはまらない内容も含まれますのでご容赦ください。
- この自転車を他人に譲るときは、本取扱説明書と品質保証書をいっしょにお渡しください。
- 取り扱いがわからないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

保護者の方へ

警告

お子様が自転車を使う前に保護者の方が本書を必ず読んで、正しい乗り方と、危険なこと・してはいけないことなど使用上の注意事項をよく指導してください。

もくじ

警告表示	2	交通ルール	14
自転車に関する法律	2	点検方法	15～20
危険な運転に対する罰則	3	乗る前の調整方法	21～25
防犯登録	3	正しい取り扱い	26～29
各部のなまえ	4	正しい使用条件	30～31
乗る前の重要点検ポイント	5	お手入れと保管	32～33
してはいけない危ない乗り方	6～8	部品交換上の注意	34
安全上の取扱注意事項	9	その他	35
このようなときの注意	10～13		

警告表示

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分で表示しています。これらを守らないと事故につながったり、けがをしたり、自転車がこわれるなどのおそれがあります。

表示の意味



警告

この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、取り扱いを誤った場合、使用者が「傷害を負ったり、物的損害を負う可能性が想定される」内容です。



禁止

この表示の欄は、「安全上してはいけない危険行為および保証範囲外の行為を表す」内容です。



強制

この表示の欄は、「使用者に必ず実行していただく」内容です。

自転車に関する法律（一部のみ紹介します）

- 「自転車の安全利用の促進および自転車等の駐輪対策の総合的推進に関する法律」第12条には自転車等の利用者の責務として次の事項が定められています。
 - (1) 自転車を利用する者は、道路交通法その他の法令を遵守する等により歩行者に危害をおよぼさないようにする等の安全な利用に努めなければならない。
 - (2) 自転車等を利用する者は、自転車等駐輪場以外の場所に自転車等を放置することのないように努めなければならない。
 - (3) 自転車を利用する者は、その利用する自転車について、国家公安委員会規則で定めるところにより都道府県公安委員会が指定する者の行う防犯登録を受けなければならない。
- 「道路交通法」第62条には整備不良車両の運転禁止が定められています。
- 「道路交通法」第63条の10には児童また幼児へのヘルメット着用として次の事項が定められています。児童または幼児を保護する責任のある者は、児童または幼児を自転車に乗車させるときは、当該児童または幼児に乗車用ヘルメットをかぶらせるよう努めなければならない。

危険な運転に対する罰則（一部のみ紹介します）

道路交通法により、次の罰則が課せられます。

- 3ヶ月以下の懲役または5万円以下の罰金
 - ・ 信号機無視
 - ・ 一時停止無視
 - ・ 右側通行（車道での逆走）
- 5万円以下の罰金
 - ・ 夜間の無灯火運転
- 2万円以下の罰金または科料
 - ・ 2人乗り
 - ・ 並進（「並進可」の標識がある場所以外で、横に2人以上で並んで走行）

防犯登録

防犯登録はお買い上げの際に必ず行ってください。

* 制度の意義

防犯登録は「自転車の安全利用の促進および自転車駐車場の整備に関する法律第12条第3項」により義務づけられています。

これは多発する自転車の盗難、さらに盗難自転車が駅前などに放置され、市民生活に支障を来す状況を改善することを目的に制定されました。

* 登録のしかた

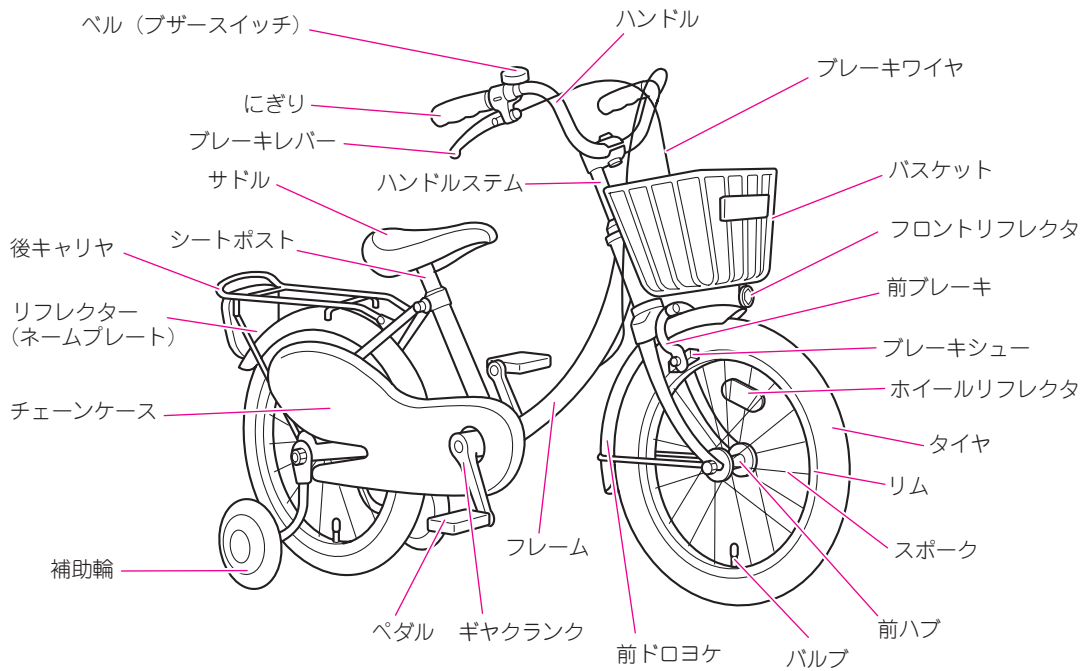
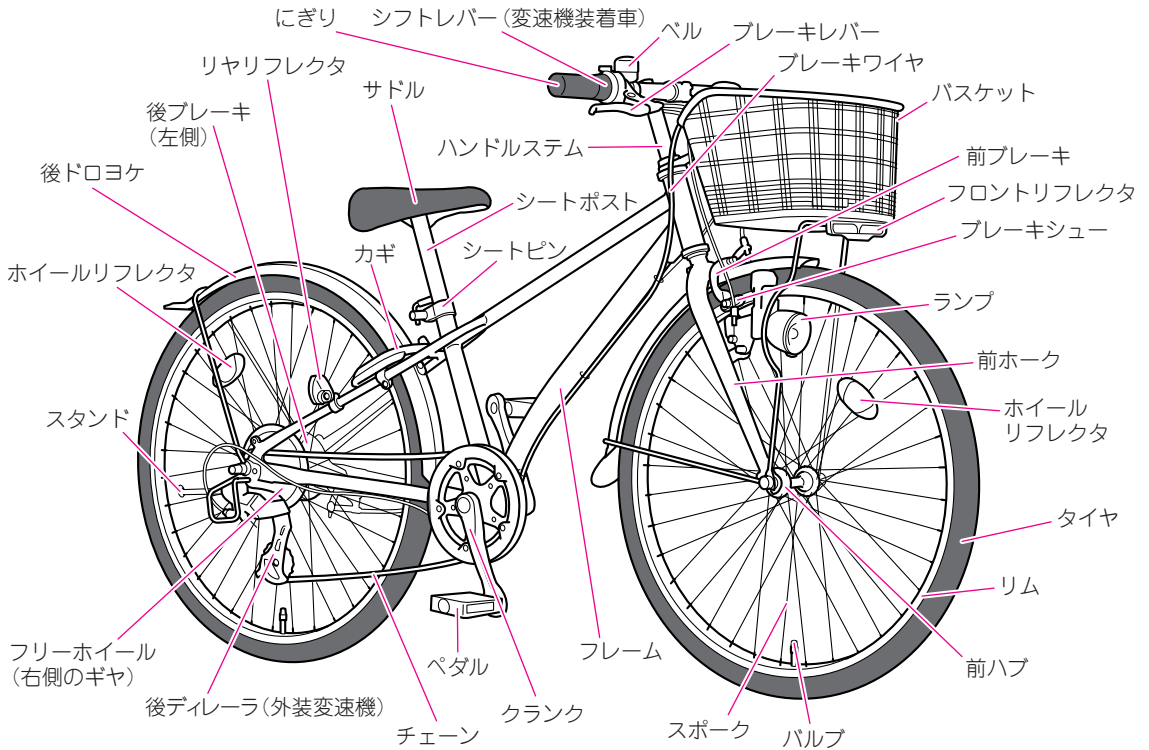
防犯登録はお買い上げの販売店で行います。防犯登録は有料です。

* 自転車が盗難にあった場合

- 地元の警察署に盗難届けを出してください。この時防犯登録ナンバーが必要になります。防犯登録ナンバーが不明だと自転車が見つかりにくくなります。防犯登録カードは保管しておいてください。
- 防犯登録の詳細については地元の警察署にお問い合わせください。

各部のなまえ

自転車の図は代表例です。



乗る前の重要点検ポイント

お使いになる人や他人への危害、財産の損害と自転車がこわれることを未然に防止するために、必ずお守りください。

警告 (危険です、乗る前に必ず点検してください！ 異常を発見したら使用しないでください！)

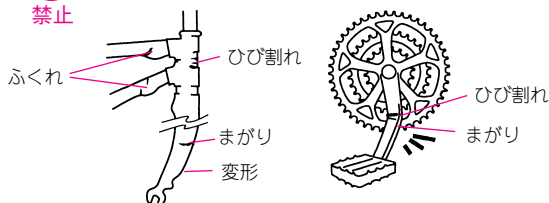
フレーム・前ホークやクランク、ペダルなどの部品に変形やひび割れやガタつきはないか

(点検方法 ■ P.19)



絶対曲げ戻して修理をしない。

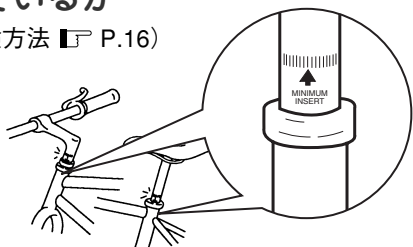
禁止



走行中にこわれて事故・けがをおこすおそれがあり危険です。変形したり、破損した部品はすぐに販売店で交換してください。

ハンドルやサドルのポストは限界標識がcaくれるまで差し込まれているか

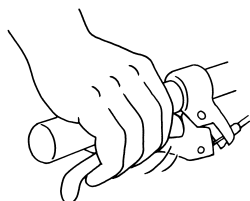
(点検方法 ■ P.16)



ハンドルや、サドル（ポスト）の折れや抜けにより事故・けがのおそれがあります。

ブレーキはよくきくか

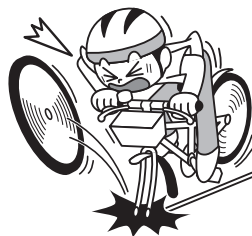
(点検方法 ■ P.20)



止まらずに衝突して事故・けがのおそれがあります。

前輪・後輪の固定は十分か

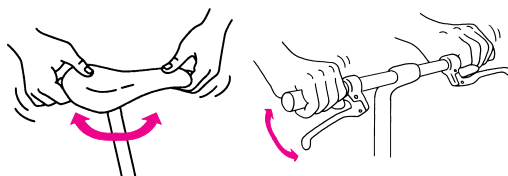
(点検方法 ■ P.17)



走行中に外れて事故・けがをおこすおそれがあり危険です。

ハンドル・サドル・にぎりの固定は十分か

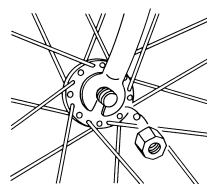
(点検方法 ■ P.16)



操縦できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

ネジがゆるんでいるところはないか

(点検方法 ■ P.17, 18)



ゆるんでいるところがこわれて事故・けがのおそれがあります。

タイヤの空気圧は十分か

(点検方法 ■ P.17, 24~25)

パンクしやすく、タイヤの摩耗が早くなります。

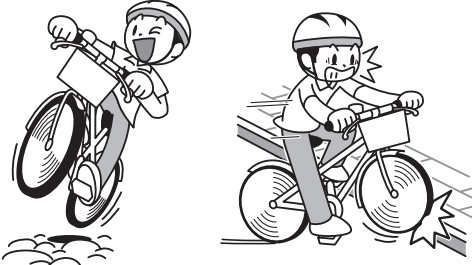
●その他の点検項目は15~20ページをご覧ください。

してはいけない危ない乗り方

警告 (危険です、危ない乗り方をしないでください！)

乱暴な乗り方はしない

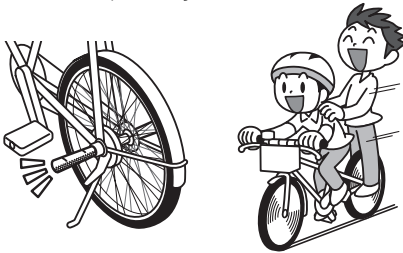
禁止 階段や縁石の乗り降り
アクロバット走行など
凹凸の激しい場所で走行しない。



自転車がこわれて事故・けがのおそれがあります。

2人乗りをしない (道路交通法で禁止)

禁止 ハブステップの禁止



操縦が不安定で転倒したり、自転車がこわれて事故・けがのおそれがあります。

かささし運転、片手運転、手ばなし運転をしない また、かさ立てを使用しない

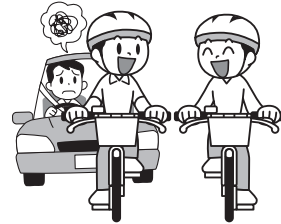
禁止 危険なときによけたり止まることができず、事故・けがのおそれがあります。必ず両手でハンドルをにぎってください。

かささし運転はかさが前方が見えづらく、かさが風を受けてあおられやすいので、事故を起こすおそれがあります。また、かさが他の通行者や物に当たるおそれがあります。雨や泥はねを防ぐためには、レインウェアを着用してください。



2人以上で通行する時、横に並んで通行しない(道路交通法で禁止)

強制 ！ 他者の交通の妨げになったり、接触して事故を起こす危険があります。1列で通行しましょう。



足でダイナモを操作しない

禁止



車輪に足がまきこまれて急ロックし、転倒するおそれがあります。

夜間道路を走る時、及びトンネル内など暗いところを走行する時、視野が悪い時は、無灯火では走行しない。幼児車は夜間使用しない(道路交通法で禁止)

禁止



見通しが悪くなり、また他の通行者から見えづらくなり、衝突や転倒による事故・けがのおそれがあります。

強制 ！ 必ず前照灯(ランプ)及び尾灯(または反射器材)を装備し、点灯してください。ランプが点かないときは降りて押してください。(バッテリーランプは点滅モードでは前照灯に相当しません)

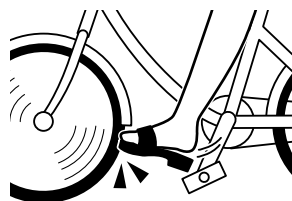
警告 (危険です、危ない乗り方をしないでください!)

ハンドルに買い物袋など物をさげて乗らない



- 車輪に物が巻き込まれたり、バランスをくずして転倒し、事故・けがのおそれがあります。
- 特に、走行中に前輪に物が巻き込まれると、前輪の回転が急ロックし、乗員が前方へ投げ出される危険があります。

滑りやすい靴(サンダルなど)や、かかとの高い靴などを履いて乗らない



足がペダルから外れて、靴(サンダルなど)が前輪に接触するとハンドル操作ができなくなったり、前輪に靴(サンダルなど)が巻き込まれて転倒するおそれがあります。

犬を引いて乗らない



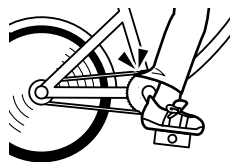
バランスをくずして転倒し、事故・けがのおそれがあります。

かさやステッキ、釣りざお等を車体に差し込んだり、つり下げて走らない



車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて、転倒や事故・けがのおそれがあります。

車輪やチェーンに巻き込まれやすい服装は避ける (長いスカートや長いマフラー、すそが広がったズボンなど)



転倒によるけがのおそれがあります。すそが広がっているズボンはバンドやゴムで留めるようにしてください。

自動車のすぐうしろに続いたり、それにつかまって走らない



自動車が速度や方向を変えた場合、転倒・衝突事故のおそれがあります。

自動車が渋滞しているときは、その前に割り込んだり、車の間をぬって前へ出ない



事故を起こすおそれがあります。

警告 (危険です、危ない乗り方をしないでください!)

他の自転車と並んで走ったり、ジグザグ運転をしたり、競争をしない



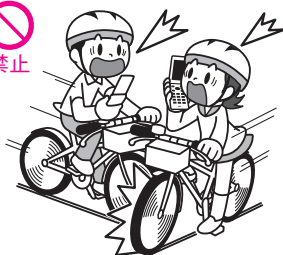
事故を起こすおそれがあります。

酒を飲んだときや疲れが激しいときは乗らない (道路交通法で禁止)



事故を起こすおそれがあります。

走りながら携帯電話をかけたり操作しない (道路交通法で禁止)



片手運転と前方不注意により事故を起こすおそれがあります。

食べたり飲んだりしながら乗らない

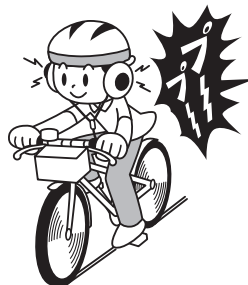


片手運転と前方不注意により事故を起こすおそれがあります。

ヘッドフォンやイヤホンを使用しながら乗らない



周囲の音が聞こえにくくなり、事故を起こすおそれがあります。

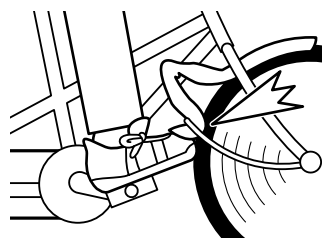


ショルダーバッグ (1本ひものバッグ) を背中に提げて自転車にのる場合は、バッグが動いて運転がしづらくなるので注意する



特にバッグのひもが長いと、バッグが自転車の後輪錠などに当たって誤動作するおそれがあります。

走行中、くつ先が前輪や前ドロヨケに接触しないようにする (つま先でペダルを踏む。)



前輪の回転により、足やドロヨケが巻き込まれて、前輪の回転が急ロックするなど、転倒事故を起こす危険があります。

安全上の取扱注意事項

⚠ 警告 (危険です、必ずお守りください!)

パンクや故障、クランクやフレームのひび割れがあるときは乗らない

(点検方法 ■ P.15~20)

禁止 事故・けがのおそれがあります。異常を発見したら使用せずに、すぐ販売店にご相談ください。

変形したり破損した部品はすぐに交換する

改造・分解・突出物(ハブステップ等)の装着および指定箇所以外の調整はしない

禁止



改造などにより正しく動かずに事故を起したり突出物の装着により歩行者に危害をおよぼすおそれがあります。

初回点検・定期点検は必ず実施する

強制



長く使っているとネジがゆるんだり調整がズレたりしてきます。必ず実施してください。

強制

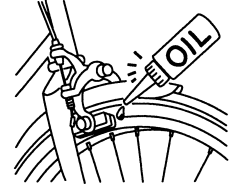
ブレーキワイヤは2年に1回交換すること。定期点検は必ず実施し、不具合が見つかった場合にも交換してください。

ブレーキ制動面に油をつけない

(注油箇所 ■ P.32)

(ローラーブレーキ ■ P.23)

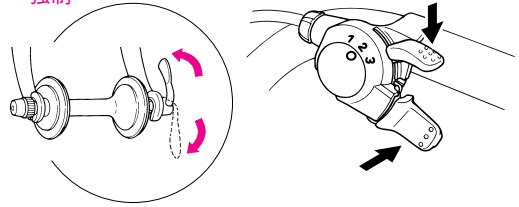
禁止



ブレーキ制動面に油がつくとブレーキがきかなくなり、事故・けがのおそれがあります。

正しい取り扱い方法を守る

強制



間違った取り扱いをすると事故・けがのおそれがあります。取扱説明書をお読みください。

未組み立ておよび未調整の自転車を使わない

禁止

部品が外れたり、操作できなくなり、転倒や事故・けがのおそれがあります。

強制

交通ルールを守る

交通ルールを守らないと事故でけがをしたり、他の人にけがを負わせるおそれがあります。

注意

夜間、自転車に乗るときは、運転者から見やすいようにできるだけ明るい目だつ色の衣服を着る

このようなときの注意

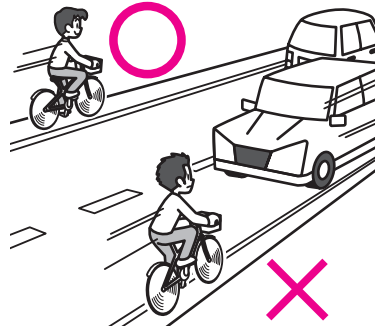
⚠️ 警告 (危険です、必ずお守りください!)

走行するとき



強制

- 必ずスタンドをはね上げておく。
(カーブを曲がる時スタンドが地面に引っかかり、転倒するおそれがあります)
- タイヤに十分空気を入れてから乗る。
(空気圧が低いと早くタイヤが減り、パンクもしやすくペダリングが重くなります。また、タイヤサイドに割れが生じる原因となります)
(適正な空気圧は25ページをご覧ください)
- 幼児、児童が自転車に乗車する時には安全のため、必ずヘルメットを着用させてください。
- 幼児、児童以外の方が自転車に乗車する時も、安全のため、ヘルメットの着用をおすすめします。
- 自転車は車道通行が原則です。但し運転者が児童・幼児等の場合は歩道を通ることができます。
- 歩道は歩行者優先です。歩道では車道寄りを徐行します。
- 車道を通るときは、左側に沿って通行します。
車道の右側通行は逆走になり、危険です。



走行中



注意

- 道路を横断、転回する場合は、自転車横断帯をとるか横断歩道を押してわたる。これらがなければ左右の安全を確認してからわたる。
- 止まっている自動車のそばを通るときは、急にドアが開いたり、かげから歩行者がとび出したりするので注意する。
- 交差点近くでは、左折自動車に巻き込まれないように注意する。



強制

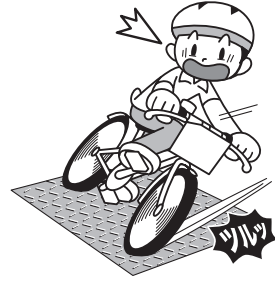
- 一時停止の標識のあるところや狭い道から広い道へ出るときは、必ず一時停止して安全を確認する。
- 曲がりかどや障害物で見通しの悪いところでは、スピードを落として注意して通る。



⚠ 警告 (危険です、必ずお守りください!)

すべりやすい路面など

- 路面が凍結や工事中の鉄板ですべりやすいところや、風雨・雪の強いとき、視界が悪いときは、自転車を押して歩く。
- 路面の溝や歩道の点字ブロックを通ると、タイヤがはまったり、すべて転倒するおそれがあるので、注意してください。(自転車を押して歩く)



急な登り坂では

- 自転車から降り、押して歩いてください。
(登り坂では前輪が浮いたり、ハンドルがとられやすくなり、転倒し事故・けがをするおそれがあります。)

ブレーキをかけるとき



強制

- いつでもブレーキレバーを握れるようにして乗る。
- ブレーキは先に後ブレーキをかけてから前後ともブレーキをかける。
(片方だけかけるとスリップして危険です)
(前ブレーキのみを強くかけると、車輪がロックし、自転車が前方に転倒するおそれがあります。)
- 停車しているときは前後ブレーキをかける。
- 急ブレーキをかけないでいいように、いつも前方に注意してスピードをひかえめにする。
- 乗車前には必ずブレーキがきくことを確認してください。
- 雨などでブレーキが濡れた場合は、乾燥させた後ご利用ください。雨が上がってもブレーキが濡れているとブレーキのききが悪くなります。特に、大雨に当たった場合やブレーキが水に浸かった場合は、必ずブレーキのききを確認し、異常があれば使用を中止してください。
- 雨天時はブレーキがききにくくなり、制動距離が長くなるので、ゆっくり走行する。
- 雨天時の坂道走行では、タイヤがスリップしたりブレーキのききが悪くなり、転倒や衝突事故を起こす危険性が高まります。前後ブレーキを併用し速度を落として走行してください。
- 長い坂を前ブレーキまたは後ブレーキだけで下るなど過酷なブレーキの使い方をすると、制動面が非常に熱くなり、ブレーキがききにくくなる場合があります。長い下り坂では前後ブレーキを使って安全な速度で下ることが大切です。
- 足ブレーキ(足で地面をこする)はしない。



スズズズ...

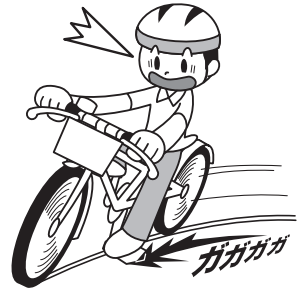
⚠️ 警告 (危険です、必ずお守りください!)

カーブを曲がる時は



強制

- カーブで急ブレーキをかけない。
(横すべりして危険です)
- カーブを曲がる時は手前でスピードを落とす。
- カーブを曲がっている間は、ペダリングを止める。
(車体が傾いている側のペダルが下になっていると、ペダルが路面に当たるので危険です)



衝突や転倒したときは



強制

- 必ず点検する。
- 異常を発見したら使用せずに販売店に相談する。



乗りなれない自転車に乗るとき、および 初心者の方は



強制

- 空き地や公園など安全な場所でよく練習してください。

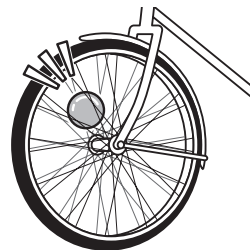


回転部分には



禁止

- 車輪、チェーン、前後ギヤには手や足を触れない。
子供がそばにいるときは、特に注意する。(はさまって大けがをします)
- スポークの間に固形物(ボールなど)を入れたり
はさんだりしない。
(車輪とフレーム、前ホークなどのすき間にはさまって車輪の回転が急ロックし、転倒するおそれがあります。)
- 走行中、くつ先が前ドロヨケまたは前輪にぶつからないようにする。
(足または前ドロヨケが前輪に巻き込まれるおそれがあります)



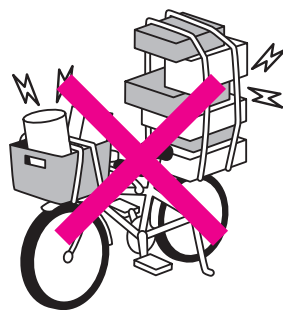
⚠️ 警告 (危険です、必ずお守りください!)

荷物を積むときは



禁止

- 必ず積載装置(キャリア・バスケットなど)を取り付けて、それに荷物を積む。(適正な荷物の大きさと重さは30ページをご覧ください)
- キャリア・バスケットなどのオプションパーツは、必ず当社専用品を取り付ける。
- 荷物は片寄らないように荷ひもでしっかり固定し、歩行者の迷惑にならないようにする。
- 荷物でリフレクタがかくれないようにする。



風・雨・雪がひどいときや視界が悪いとき



強制

- 無理に乗らない。自転車から降りて押して歩く。無理に乗ると転倒や衝突事故を起こすおそれがあります。



走行目的以外の使用



禁止

- 踏み台など走行目的以外に使わない。(転倒してけがをするおそれがあります)



⚠️ 注意 (安全のために必ずお守りください!)

サビを防止し、長持ちさせるために



強制

- 定期的に入れをする。(手入れの仕方は31ページをご覧ください)

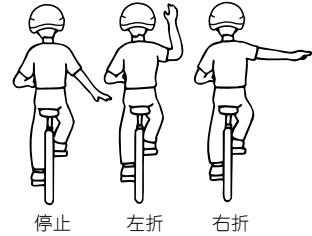


交通ルール

交通ルールを守りましょう

1. 自転車の正しい乗り方

- 発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確かめる。
- 右折、左折するときは、早めに合図する。
- 停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止し、左側に降りる。



2. 自転車の通るところ

- 車道を通るときは、車道の左側に沿って通行する。
- 自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白二本線の標示のあるところは通れません。
- 自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
 - ・歩道の車道寄りの部分を徐行する。
 - ・歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止する。
- 自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
- 道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。
自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。



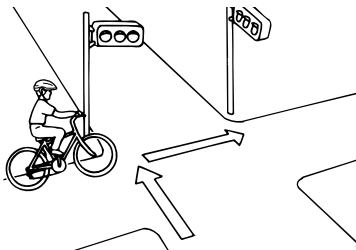
3. 自転車が通行できる歩道、路側帯を通るときの注意

- 歩道は歩行者優先であり、車道寄りを徐行すること。
- 歩行者の通行を妨げない。
- こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か、十分速度を落とす。
- 自転車は車道通行が原則です。道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって、歩道と車道の区別のあるところでは車道通行が原則です。但し、次の場合には歩道を通行することができます。
 - ・道路標識等で指定された場合
 - ・運転者が児童、幼児等の場合
 - ・車道または交通の状況からみてやむを得ない場合

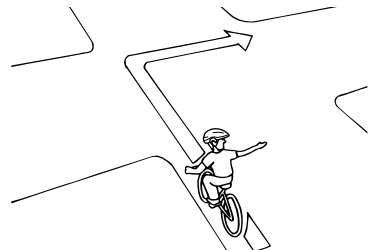
4. 交差点の通り方

- 右折の方法

信号などや交通整理が行われているところ



信号がなく交通整理が行われていないところ



- 自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
- 自転車進入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

点検方法



乗る前の「日常点検」と販売店に願う「初回点検」「定期点検」を必ず実施してください。また、異常を感じた場合も販売店で点検を受けてください。

強制

初回点検

- 使用開始後2ヶ月以内、または100km到達時に販売店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。

初期の内は特にネジがゆるみやすいので、必ず販売店で点検を受けてください。点検は有料です。

定期点検

- 購入後6ヶ月以内、12ヶ月以内、その後は1年ごと及び異常を感じた場合に販売店で、自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。

安全に長くお使いいただくために必ず販売店で定期点検を受けてください。点検は有料です。

長い間使用せず、再び使用するときも点検をお受けください。

乗るまえの日常点検

- 乗る前に必ず点検し、安全を確かめてから乗ってください。

変形や破損している部品は必ず新品と交換してください。

変形や破損したまま使用をつづけると、大きな損傷や事故につながるおそれがあります。

自転車の図は代表例です。

各部の点検

記載例

点検箇所 → ハンドルの固定 → P.00 ← 点検方法を説明しているページ

◆正しい乗車姿勢→P.21

◆各部のネジのゆるみ→P.18

◆サドルの固定→P.16

◆リフレクタの
よごれ・割れ→P.18

◆内装変速機・
ディレーラの
動き→P.18

※内装変速機・ディレーラ装着車のみ適用

◆フレーム・前ホークの
きれつ・変形→P.19

◆クランクの曲がり・ひび・ガタ・回転性→P.19

◆ペダルの曲がり・ガタ・回転性→P.19

◆チェーン油切れ・たるみ→P.17

◆補助輪の固定→P.24

◆ベルの鳴り→P.18

◆ハンドルの固定→P.16

◆ブレーキレバーの固定→P.20

◆ブレーキのきき→P.20

◆ワイヤのサビ、切れ→P.20

◆ヘッドのガタ→P.18

◆ブレーキシュー
(ゴム)の減り→P.20

◆ランプの点灯→P.18

◆スポークの切れ・変形→P.19

◆車輪の固定・ガタ
振れ・回転性→P.17

◆タイヤのキズ・摩耗
空気圧→P.17

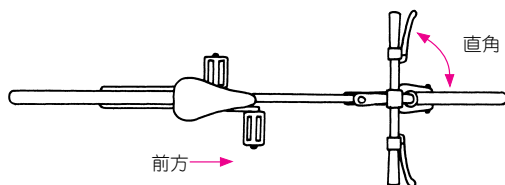
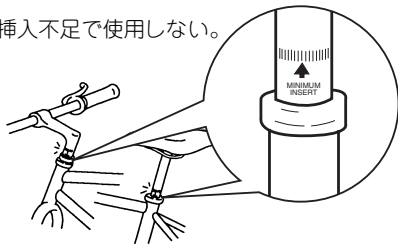
ハンドル・サドル

⚠ 警告： 固定が不十分なまま使用すると、走行中に抜けたりゆるんで、事故・けがのおそれがあります。

● ハンドル・サドルの組付



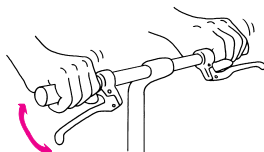
挿入不足で使用しない。



- ※ 限界標識がかけれるまで差し込まれていること。
- ※ ハンドルが前輪に直角に固定されていること。
- ※ サドル先端がフレームの前方と合っていること。
- ※ サドルにすわってブレーキやハンドルをムリなく操作できること。(調整方法 ■ P.21～23)

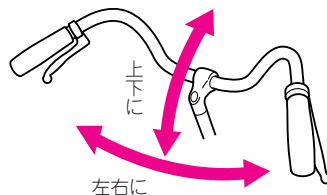
● にぎりの固定

- ※ 力を入れても回ったり抜けません。



● ハンドルの固定

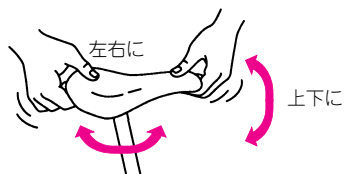
(前輪を足で固定してハンドルを動かしてみる)



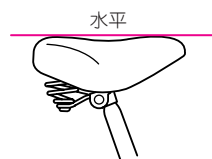
※ 力を入れても回らないこと

● サドルの固定

(サドルの前後を持って動かしてみる)



※ 力を入れても回らないこと



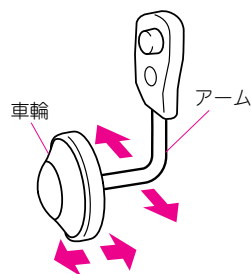
※ サドル上面がほぼ水平に固定されていること

補助輪

● 補助輪の固定

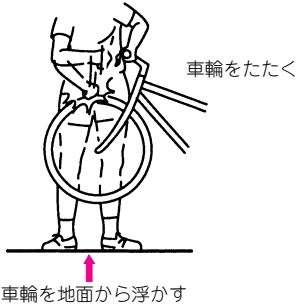
- ※ 車体を押さえ、アームに前後左右に力を加えても、ガタがないこと。
- ※ 車輪が破損していないこと。

⚠ 注意： ガタや破損があるまま使用すると、補助輪が外れて、転倒するおそれがあります。



車輪

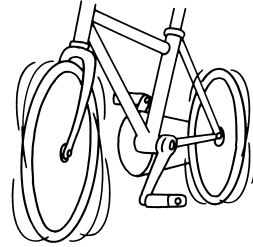
- 固定（自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいてみる。）



※ 車輪がズレたりガタついたりしないこと。

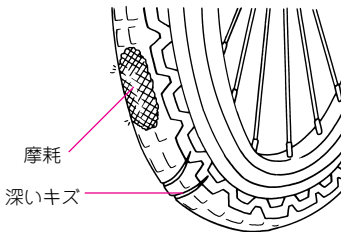
⚠ 警告：ズレやガタがあると、走行中に外れて、事故・けがを起こすおそれがあります。

- 振れ・ガタ・回転性（自転車を持ち上げて回してみる。）



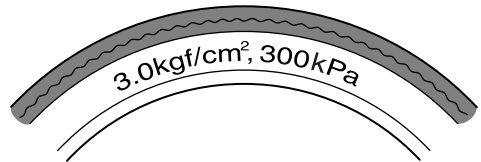
※ スムーズに回転し大きな振れやガタがないこと。

- タイヤのキズ・摩耗



※ コードが見える深いキズがないこと。
※ 接地面の模様が十分残っていること。

- 空気圧



※ 十分空気が入っていて、タイヤ側面に表示してある推奨空気圧になっていること。
(図の数値は表示の例)
(空気補充のしかた ■ P.24)

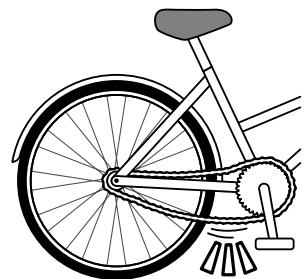
⚠ 注意：空気圧が低いと、パンクしやすく、タイヤの摩耗が早くなります。

チェーン

- チェーン

※ 油切れがなく、指で動かしてみたときなめらかにうごくこと。
※ チェーンが大きくなるんでいないこと。
(自転車を10cmほど持ち上げて軽く落とすとき、チェーンがフレームやチェーンケースに強く当たるほどたるんでいないこと)

⚠ 警告：チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、危険であるので、すぐに販売店で調整を受けてください。



内装変速機・ディレーラ

● 内装変速機・ディレーラ (外装変速機)

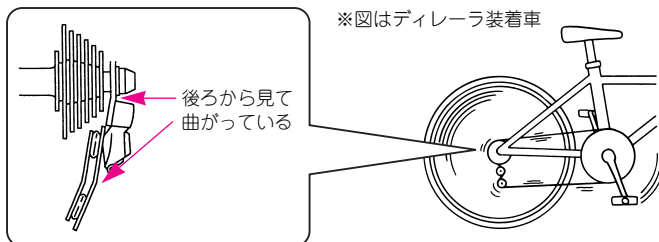
(ディレーラ装着車はクランクを正回転させながらシフトレバーを操作する)

※ 各ギヤにスムーズに変速 (ギヤチェンジ) すること。

※ ディレーラ装着車はチェーンがロー側、トップ側とも外れないこと。

※ 後から見てディレーラが変形していないこと。

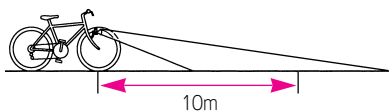
⚠ 警告： 変形したまま使用すると、後輪にディレーラを巻き込んで、事故を起こすおそれがあります。



ベル・ブザー・ランプ・リフレクタ

● ランプ

※ 明るく点灯し、10m前方の路面を照らすこと。

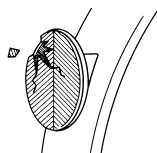


● リフレクタ

※ 必ず装着されており、反射面の向いている方向からよく見えること。

(リヤリフレクタは後方を向いていること)

※ 反射面の汚れや割れないこと。リフレクタが破損したり汚れたら、部品交換または汚れを除去してから使用してください。



● ベル・ブザー

※ ベル・ブザーが必ず装着されており、よく鳴ること。

● テールランプ

夜間使用時には点灯または点滅すること。
(テールランプ装備車のみ)

各部のネジのゆるみ

⚠ 警告： ゆるんだまま使用すると、走行中にこわれて、事故・けがのおそれがあります。

● ヘッド部のゆるみ、ガタ

左右のブレーキレバーをにぎり、自転車を前後にゆする。

※ ガタがあればヘッド部がゆるんでいたたり、部品がこわれているおそれがあります。

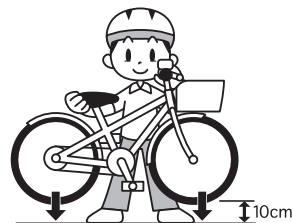


● 各部のネジのゆるみ

(10cmほど持ち上げて軽く落とす)

※ 変な音がしないこと。

変な音がしたらネジがゆるんでいるおそれがあります。

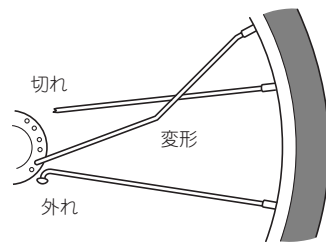


スポーク・ニップル

● スポーク・ニップル

※ 切れ、外れ、変形の無いこと。

⚠ 警告： スポークやニップルの切れ、外れ、変形がある場合は、早急に交換してください。ホイールが変形し、ブレーキと接触して走行性が損なわれ、転倒するおそれがあります。スポークやニップルが一本でも切れたまま走行を続けると、他のスポークに大きな負担が繰り返し加わり、スポーク寿命が低下し、スポーク切れが継続して発生する場合があります。スポークは全て交換することをお勧めします。

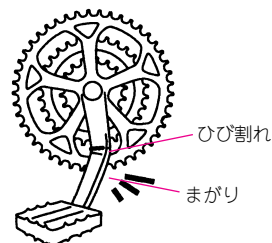


クランク・ペダル

● クランク・ペダル

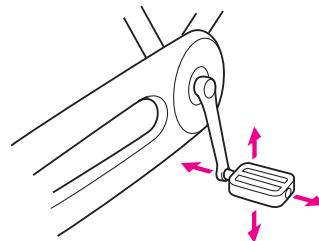
※ 変形やひび割れがないこと。

⚠ 警告： 変形やひび割れがある場合はすぐに新品と交換してください。走行中にこわれて、転倒・けがのおそれがあります。



※ ペダルに上下左右に力を加えたときガタがないこと。

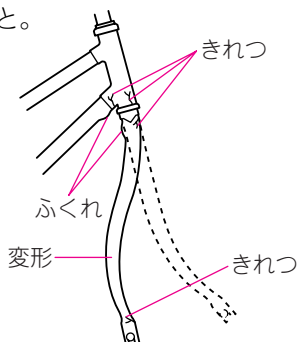
⚠ 注意： ガタを放置したまま使用を続けると、部品の外れや、破損にいたるおそれがあります。ガタがある場合はすぐに販売店で調整を受けてください。



フレーム・前ホーク

● フレーム、前ホーク

※ 変形、きれつ、ふくれ、などの異常がないこと。



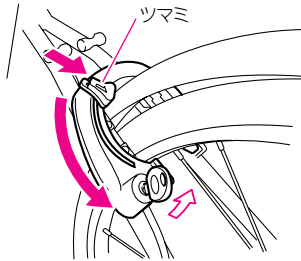
(正面衝突したり、前輪に物が巻き込む [P7 左上] と、図のように前ホークが変形することがあります。)

⚠ 警告： 変形やきれつが発生している場合はすぐに新品と交換してください。走行中にこわれて、事故・けがのおそれがあります。

⚠ 注意： 前ホークには、交通事故などで衝突した時に、前ホーク自体が変形することで、乗員や車体に加わる衝撃を吸収する機能があります。このため、衝突や転倒などで、自転車に強い衝撃が加わった後は、特に前ホークにきれつや変形などの異常がないか確認してください。

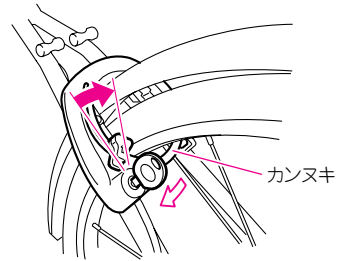
鍵(カギ)

- 後輪錠 (図は代表例です)
施錠操作してみる。



- ※ 施錠操作がなめらかにできること。
- ※ 施錠操作しないのにカンヌキが出ることがないこと。

- 開錠操作してみる。



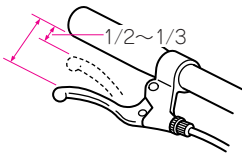
- ※ 開錠操作をすると、カンヌキ及びツマミが確実に元へもどること。
- ※ 開錠操作(キーを差し込んで回す)がなめらかにできること。

ブレーキ

- ❗ プレーキワイヤは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。
- 強制 プレーキレバーの遊びが大きいものは、ブレーキがきかなくなることがあり危険ですので、すぐに販売店で調整を受けてください。

● プレーキのきき具合

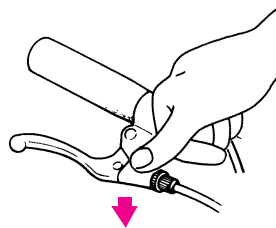
(レバーを引いてきき具合をみる)



- ※ すきまが1/2~1/3になるまでにブレーキがよくきくこと
- ※ レバーの作動が重くないこと

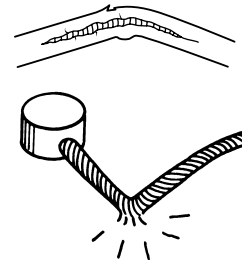
● レバーの固定

(指で押してみる)



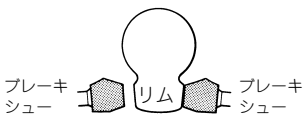
- ※ ズレ動かないこと

● ワイヤのサビ・切れ

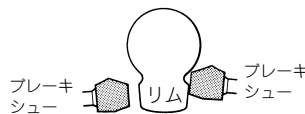


- ※ サビ・切れ・ほつれ、折れないこと

● プレーキシューの当たり

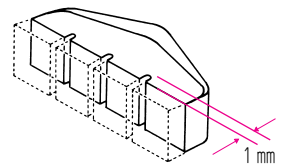


- ※ プレーキシューがリムに当たったままになってないこと



- ※ プレーキシューがリムからズレていないこと

● プレーキシューの減り



- ※ 溝の残りが1mm以上あること
- ※ 溝に小石等がはさまっていないこと

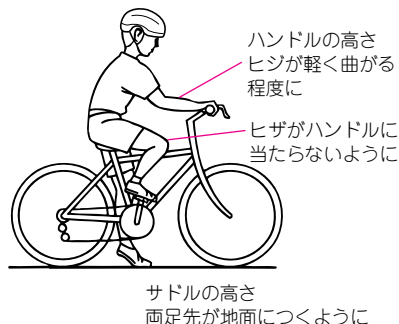
乗る前の調整方法

安全を確保するために、各部の調整は注意点を守って確実に行ってください。これを怠りますと思われ事故につながります。ご不明な点がございましたら、販売店にご相談ください。また、調整はお子様にはさせないようにしてください。

⚠️ 注意 (安全のために必ずお守りください！)

正しい乗車姿勢

- サドルに腰をおろし両手をにぎりにおいた状態で、
- ① 両足先が確実に地面につくこと。
 - ② 上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
 - ③ ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。
 - ④ 円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。

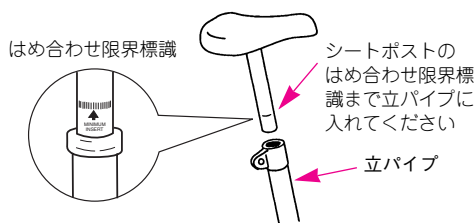


サドルの調整のしかた

⚠️ 警告：調整後は、確実に固定されているか確認してください。固定が不十分であると、運転できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

サドルの高さ

⚠️ 警告：最も高くした場合でも、シートポストのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていないと、サドル（シートポスト）の折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。



《調整方法》

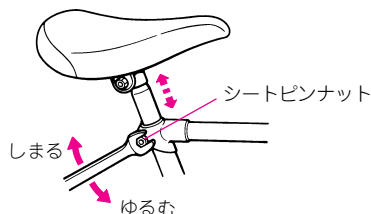
ボルトナット式および回転式シートピンの場合

- ① 右側のシートピンナットまたはシートピンレバーをゆるめるとサドルを上下に調整できます。
- ② 固定するときは、右側のシートピンナットまたはシートピンレバーを締め付けて固定してください。
- ③ サドルが回らないことを確認してから乗車してください。

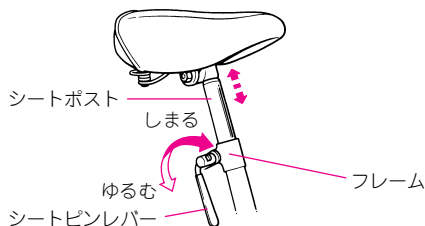
⚠️ 注意：シートピンは左側を回すとシートラグが破損します。絶対に回さないでください。

⚠️ 警告：調整後は、レバーが足に当たらない位置に閉じてください。ペダルをこいだときにレバー先端が足に当たってけがをするおそれがあります。

ボルトナット式シートピン



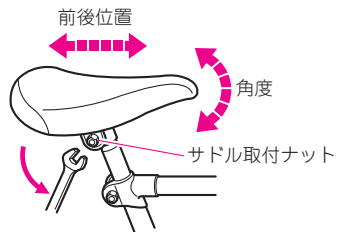
回転式シートピン



- ◆ ペダルをななめ前のいちばん力を入れやすい位置にして足を乗せたとき、ひざの中心の真下にペダルの中心があるのが最適です。
サドルの取付角度は、サドル上面がほぼ水平になるようにしてください。

《調整方法》

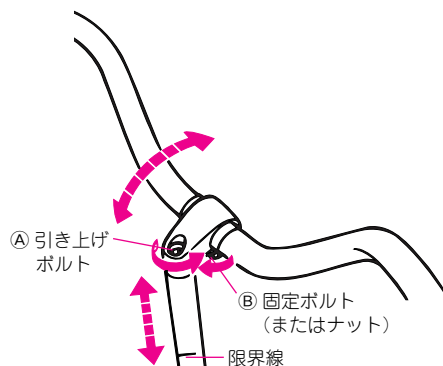
- ① サドル取付ナットをスパナでゆるめて前後位置と取付角度を調整してください。
- ② 固定するときはスパナでサドル取付ナットを締め付けて固定します。



ハンドルの調整のしかた

⚠ **警告：** 調整後は、確実に固定されているか確認してください。固定が不十分であると、運転できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

⚠ **警告：** 最も高くした場合でも、ハンドルステムのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていないとハンドルステムの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあり危険です。



《調整方法》

- ① 引き上げボルトAをゆるめるとハンドルステムを上下に調整できます。
- ② 固定ボルト(またはナット)Bをゆるめるとハンドルバーの角度を調整できます。
- ③ 固定するときはゆるめた引き上げボルトAおよび固定ボルト(またはナット)Bを六角棒スパナ(またはスパナ)で締め付けて固定してください。

- ◆ 引き上げボルトAをゆるめてもハンドルステムが動かないときは、引き上げボルトの頭を木片などで軽くたたいてください。

ブレーキ調整のしかた

- ◆ 長い間使っているとブレーキレバーのあそびが大きくなり、ききが悪くなってきます。常にブレーキがきくように調整してください。

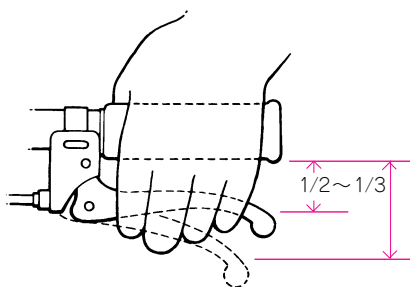
⚠ **警告：** ブレーキ各部はこの説明書に記載されているところ以外は、絶対に自分で調整しないでください。

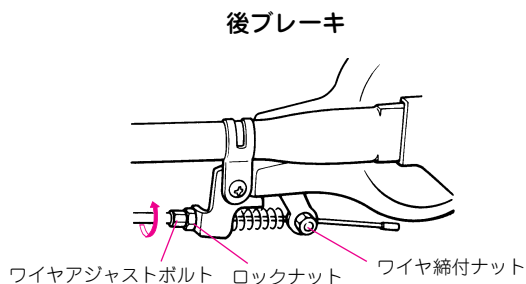
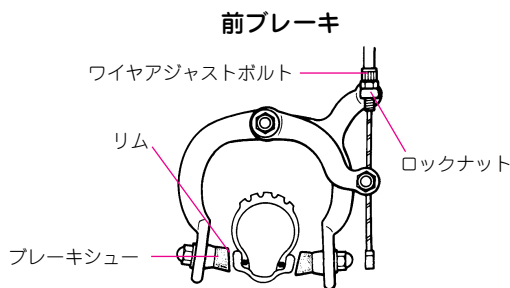
《調整方法》

前・後ブレーキ共にワイヤアジャストボルトを左(反時計回り)へ回すとワイヤが張ってブレーキレバーのあそびが少なくなります。

ブレーキレバーを引いてすきまが1/2~1/3になるまでにブレーキがよくきくように調整してください。

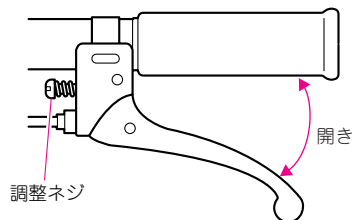
ワイヤアジャストボルトにロックナットが装着されているものは、一度ロックナットをゆるめてからアジャストボルトを調整してください。調整後はロックナットを締め付けてください。





レバー開き調整のしかた

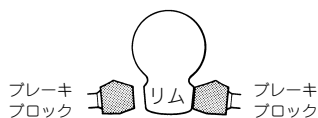
ブレーキレバーに、調整ネジがついているものは、手の大きさに合わせて、ブレーキレバーの開きを調整できます。調整ネジを締め込むと、ブレーキレバー（を引く前）の開きが小さくなります。



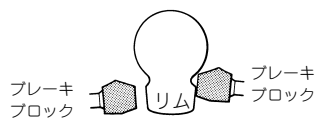
！ つぎの場合には販売店にご相談ください。

強制

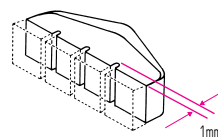
◆ ブレーキブロックがリムに当たったままになっているとき



◆ ブレーキをかけた状態でブレーキブロックがリムからズレているとき

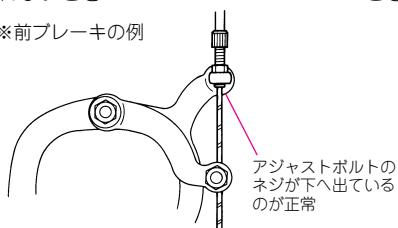


◆ ブレーキブロックが摩耗して、溝の残りが1mm以下になったとき

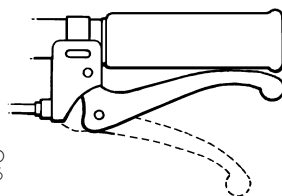


◆ アジャストボルトで調整しきれないとき

※前ブレーキの例



◆ ブレーキのききが悪くなったとき

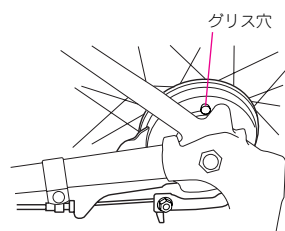


◆ 「ローラーブレーキ」で次の場合

- ① ブレーキをかけたとき、音鳴りがする。
- ② ブレーキが急激にきく。
- ③ ブレーキのききが異常に弱い。

この状況は内部のグリス切れが考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスをグリス穴から補給してください。

※グリス穴がフレームに隠れている場合は、ホイールをフレームから外してグリスを補給してください。



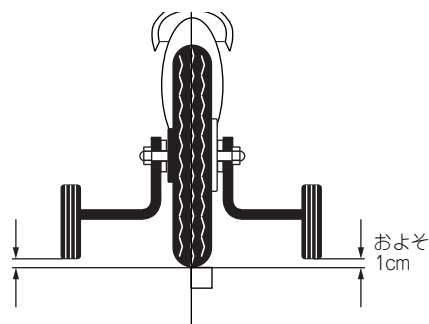
内装変速機・ディレーラ(変速機)の調整は、販売店に依頼してください。

内装変速機・ディレーラ(変速機)は調整がむずかしく、まちがった調整をすると正常にシフト操作しただけでなく、チェーンが外れたり内装変速機やディレーラが破損してしまうおそれがあります。

補助輪調整のしかた

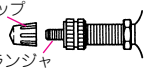
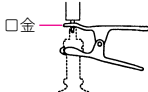
- ◆ 補助輪は乗車時地面とのすきまが1cmくらいあくように調整してください。

- ⚠ 注意：**
- ・ 左右の補助輪共、地面に接地したまま乗車すると、後輪が浮いて空回りする場合があります。
 - ・ 調整後は確実にボルトまたはナットを固定してください。



タイヤへの空気補充のしかた

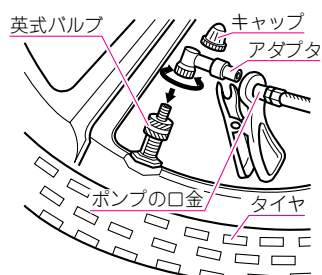
- ◆ お買い上げいただきました自転車のバルブの種類を確認してください。バルブの種類に合ったポンプで空気を補充してください。ポンプの口金は製造メーカーによって異なりますので一例を示します。詳しくは販売店にご相談ください。

種類	バルブの種類	ポンプ(口金)の種類	空気の入れかた
英 式	キャップ  ブランジャ	 口金	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブランジャにポンプの口金を取り付けて空気を入れ、空気圧を確認する。

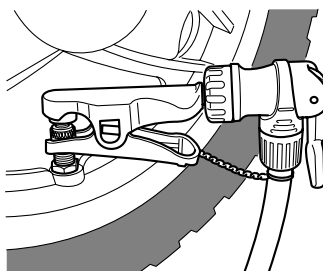
小径車の場合

- ◆ 小径車に空気を入れる場合、ポンプの種類によっては口金部分が大きいために、下記方法でないと、空気を入れられない場合があります。

《アダプタを使用する方法》



《「New ハイパワーポンプ」を使用する方法》



空気圧の測定

- ⚠ 注意：**
- ・ 空気圧が少ないと、タイヤの接地面積が広がって走行抵抗が増し、ペダリングが重くなります。また、タイヤの摩耗やパンク、リムの変形の原因になります。
 - ・ 空気圧が高過ぎるとタイヤがリムから外れるおそれがあります。必ずタイヤに表示している空気圧の範囲内で使用してください。

<タイヤ空気圧表示例と換算値>

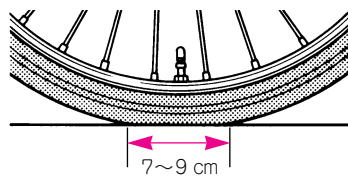
1KPa \approx 0.01kgf/cm² \approx 0.145PSI

KPa	kgf/cm ²	PSI
280	2.8	40
300	3.0	43.5

- ◆ 英式バルブ用タイヤ空気圧ゲージはありませんので、次の乗車しておこなう簡易測定をしてください。

《空気圧の簡易測定のしかた》

自転車に乗車した状態での接地面の長さで空気圧を判定してください。



接地面の長さが7~9cmくらいが適当です

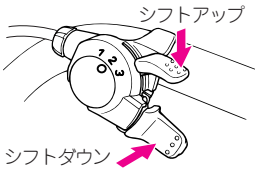
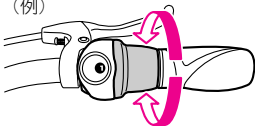
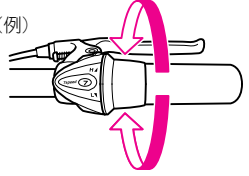
正しい取り扱い

変速機の使い方 (変速機装着車のみ)

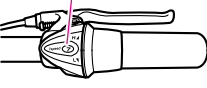
- ◆ 変速機は、「走る速さ」や「坂道」「風向き」などの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダルを踏む速さと重さを一定にして、疲れを少なくすることができます。
- ◆ 変速機には大きく分けて構造の異なる「内装変速機」と「外装変速機」があり、シフト (変速) 操作とペダリングのタイミングが異なります。

シフトレバーの種類とシフト操作

シフトレバーはおもに3種類あります。おもなシフトレバーの操作方法はつぎのとおりです。

変速機の種類	内装3段	内装3段	外装6段, 外装7段 (ディレーラ)
シフトレバーの種類と操作方法 (ペダルの踏みごこちが重くまたは軽くなります)	ダブルレバー型 	グリップシフター型 (例) 	グリップシフター型 (例) 
シフト操作とペダルを踏むタイミング	走行中	・ シフト操作する時は、ペダリングを止めます。 (ペダルを強く踏まない)	
	停車中	・ 停車中でもシフト操作はできます。 (ペダルは止めておき、強く踏まないこと)	
			・ シフト操作する時は、軽くペダリング (正回転) しながら行います。
			・ 停車中にはシフト操作できません。

走行状況とシフト位置

走行状況の例 (ギヤの重さ)		スタート時、低速走行時、上り坂、向かい風 (軽くしたいとき)			高速走行時、下り坂、追い風 (重くしたいとき)			
		←			→			
シフト位置 (シフトレバーの表示)  (例)	内装	3段	軽 1 (スタート)	中 2	速 3			
	外装	6段	1	2	3	4	5	6
		7段	1	2	3	4	5	6
			(一般に数字が大きくなるほどペダルの踏みごこちが重くなります)					

シフト操作の注意事項

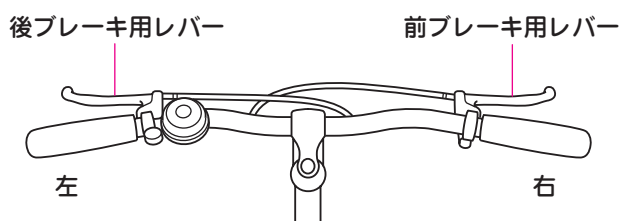
- ❌ 禁止：**
- ・ シフト操作の時はペダルを強く踏まないでください。ギヤのかみ合わせが変わる時のショックでペダルを踏み外したり、変速機が故障するおそれがあります。
 - ・ 停車状態から踏み出す時には無理にシフト操作しないでください。チェンジミス（ギヤとチェーンのかみ合わせが不完全な状態）が起きて、ふらついて転倒したり、部品が故障してしまうおそれがあります。
 - ・ ペダルを逆転しながらシフト操作しないでください。部品が破損したり、クランクの回転が急に止まってペダルを踏み外すおそれがあります。
 - ・ 一度に2段以上シフト操作しないでください。チェーンが外れたり、ペダルと足の回転が合わずに、ペダルを踏み外すおそれがあります。
 - ・ 外装変速機は停車時にはシフト操作しないでください。変速機が故障したり、踏み出す時にチェンジミス（ギヤとチェーンのかみ合わせが不完全な状態）でペダルを踏み外すおそれがあります。

- ⚠️ 注意：**
- ・ シフト操作は坂道の手前で早めに操作してください。
 - ・ 急な上り坂や下り坂では自転車から降りて押してください。ふらついたりスピードが出すぎて危険です。
 - ・ 外装変速機仕様車は、ペダルを激しく逆転するとチェーンが外れるおそれがあります。

ブレーキ操作のしかた

ブレーキをかける時は、前後ブレーキを両方ともかけてください。

- ⚠️ 注意：** 前ブレーキまたは後ブレーキだけ強くかけると、前輪または後輪がロックして操縦困難になったり、車体後部が持ち上がって転倒するおそれがあります。



できるだけ、急ブレーキはかけないように走行し、日ごろからブレーキのききぐあいを確認しておきましょう。

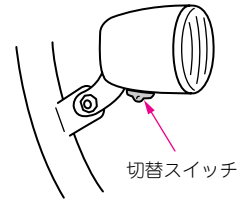
ダイナモ操作のしかた

- ◆ 使い方の詳細は各ランプの取扱説明書をごらんください。
下記に4タイプの代表例を示します。

⚠ 警告： 走行中にダイナモやランプの操作はしないでください。ダイナモが急激に回転して破損したり、車輪に巻き込まれるおそれがあります。

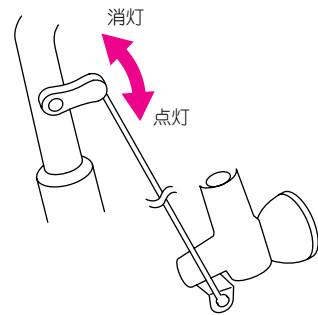
1. 自動点灯式

- 暗くなると自動点灯します。(自動点灯モード時)
- 点灯モードの切り替えは、ランプにあるスイッチで切り替えられます。



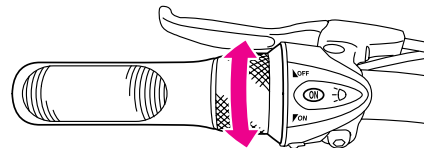
2. リモコンレバー式

ハンドルまたはハンドルポストに装着されたレバーでダイナモを起倒操作します。



3. 手元グリップ式

ハンドルの手元グリップを回すとダイナモを起倒操作できます。



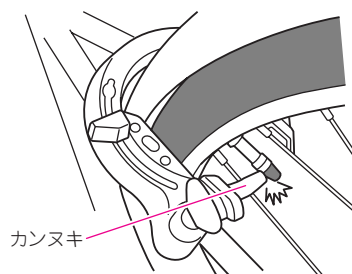
駐輪のしかた

平らな場所に自転車を止め、スタンドを立ててロックし、カギをかけます。

カギをかけるときの注意



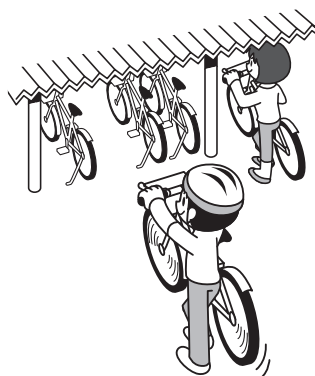
- スタンドをたて立てた後でカギをかけてください。
- カギをかける時は、カンヌキが車輪のスポークやバルブに当たらない位置で施錠してください。
(後輪錠装着車の場合)



駐輪するときの注意



- 地面が傾いたり不安定な場所に駐輪すると、自転車が倒れたり、動いたりするおそれがあります。
- 自転車を駐輪するときは、歩行者や車両の通行の妨げにならないように注意し、カギが装備された自転車は必ずカギをかける。
- 駐輪場がある場合はそこに置く。
- 公の場所に自転車を長期間放置しない。
- 風の強い日は自転車が倒れる場合があるので注意する。
- 幼児車はカギが装備されていないので、置き場所には注意してください。



駐輪中の注意



- スタンドを立てた状態で、自転車に体重をかけて寄りかからないでください。スタンドに無理な力が加わり、破損するおそれがあります。(特に1本スタンド) また、自転車が倒れるおそれがあります。
- 両立スタンドを立てた状態で、自転車に乗ってペダルをこいだりしないでください。スタンドに無理な力が加わり、壊れやすくなったり、転倒するおそれがあります。

走り出すときの注意



- カギを開錠してから、スタンドをはね上げてください。施錠したまま自転車を動かすと、カギのカンヌキがスポークやバルブとぶつかり破損するおそれがあります。
- カギのカンヌキが確実にもどったことを確認してください。
- ハンドルロック装備車は、ハンドルロックが確実に解除したことを確認してください。

正しい使用条件

* 子供車と幼児車の区分

	車輪の径 (インチ)	サドルの最大高さ (mm)
子供車	24以下	695~850
幼児車	18以下	435~635

* 標準常用速度

子供車 8~15km/h

幼児車 5~8km/h

※ この標準常用速度は、この自転車を設計するうえで想定した標準的な速度です。

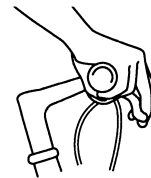
⚠ 警告：高速での事故・転倒は大ケガのおそれがあります。スピードはいつもひかえめにしてください。

* 標準適用体格

- サドルに腰をおろしペダルを下にさげて足を乗せたとき、ひざに余裕があるように調整できること。
初心者の方やお子様はサドルに腰をおろしたとき、両足がべったり地面につくこと。
- ブレーキレバーを余裕をもってにぎることができること。



両足が地面にとどく



* 乗員体重

子供車 40kg

幼児車 20kg

※ 乗員体重は、この自転車を設計するうえで想定した標準的な乗員の体重です。

*乗せられる荷物の大きさと重さ

乗せられる荷物の大きさと重さはつぎのとおりです。積載装置を取り付けた場合に適用します。

●子供車

荷 物	バスケット・バッグ	キャリア
大 き さ	バスケット・バッグにおさまる 大きさまで	高さ : 30cmまで 幅・長さ : キャリアの幅・長さ プラス10cmまで
重 さ	前後合わせて10kgまで（但し、前は2kgまで）	

●幼児車

荷 物	バスケット・バッグ	キャリア
大 き さ	バスケット・バッグにおさまる 大きさまで	⊘ 積載禁止 ⚠ 注意： 幼児車のリヤキャリアは保護者の方が、後ろで補助するためのものです。
重 さ	バスケットは2kgまで	

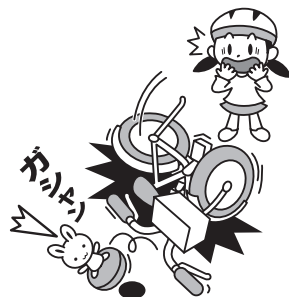
⚠ 警告：荷物の大きさや重さが表の内容を超え積載すると、自転車の安定性が損なわれ、転倒・事故をおこすおそれがあります。表の内容を超えないようにしてください。

⚠ 注意：リヤキャリア未装着車について

- ・リヤキャリアを装着する場合は当社推奨のオプション品を必ずご使用ください。
- ・リヤキャリアが装着できない自転車もありますので装着については購入した販売店にご相談ください。
- ・シート止めリヤキャリアを取り付ける場合には、シートピン本体の長さが短いと確実に固定できないため、必要に応じてシートピン本体を適切な長さのものに交換してください。
- ・個人差がありますので、表記の範囲であっても、運転に不安を感じる場合は使用しないでください。

保管のしかた

- ⚠ 注意：**・自転車を倒したり、ぶつかったりすると、部品がこわれる場合があります。特に人形付きベルは取り扱いに注意してください。
- ・炎天下の密閉された自動車内など、高温になる場所に保管すると、空気圧によりタイヤがリムから外れるおそれがありますのでご注意ください。（特に樹脂ホイール車）



* 保管のしかた

- 寒冷地では水分が凍って部品の作動が悪くなる場合がありますので、凍結防止のため、暖かい場所で保管してください。
- 盗難防止のため、必ずカギをかけてください。スペアキーは、なくさないように保管してください。
- 雨のかからない乾燥した場所に保管してください。屋外に保管される場合にはサイクルカバーやビニールシートを使用してください。風雨にさらされると、錆びや劣化・汚れが早くなります。（但し、長期間、屋外でカバーやシートをかけたままにしておくと、湿気がたまる場合があります）
- 長期間自転車を放置すると、タイヤの空気が抜けて、つぶれくせがつく場合がありますので、タイヤに空気を入れて保管することをおすすめします。

* サビを防止し、長持ちさせるために

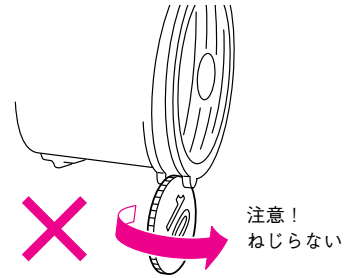
- 定期的に手入れをする。
- 焼却炉の煙、潮風、直射日光、雨の当たる場所は避ける。
- 除草剤などの薬品や火花が自転車にかからないようにする。
- メッキ・ステンレス部は、「サビ止め油」や「機械油」を少しふくませた布でふいてください。
- 海岸、湿気の多いところ、大気汚染発生場所、工場地帯、便所や浄化槽の近くなどサビやすいところにおくときは、お手入れの回数を多くしてください。

部品交換上の注意

部品交換については販売店にご相談ください。

1. ランプの電球

- ランプの種類により電球の規格や固定形式（ネジ式・差込式）も異なりますので、電球が切れたら同じ規格の電球に交換する必要があります。
- 電球交換のためにレンズカバーを開ける時はレンズカバーを割らないように注意してください。特にコインで開けるタイプは、コインをねじるとカバーまたは本体が割れる場合があります。ランプの取扱説明書もご参照ください。



- LEDランプは電球 (LED) の交換はできません。

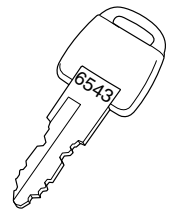
2. タイヤ・チューブ

- タイヤまたはリムに表示された規格のものに交換します。
- 同じインチサイズでもWOタイヤ（例：24×1³/₈WO）とHEタイヤ（例：24×1.75HE）は互換性がありませんのでご注意ください。

3. スペアキー

- 自転車のスペアキーは、一般に鍵屋さんでは作れません。ただし、弊社カタログにスペアキー対応の表示がある一部の車種に限り、スペアキーをご注文できます。スペアキーのご注文は、販売店にキーNoと車種をご指定の上、ご注文ください。

- ⚠ 注意：**
- キーNoがわかりませんと注文できませんので、お客様がキーNoを控えておいてください。
 - ご注文からスペアキーの納品には10日以上かかる場合があります。
 - 部品の生産終了や在庫切れにより、対応できなくなる場合があります。
 - スペアキーは元のキーに対してつまみなどが異なる場合があります。
 - 防犯上の理由からスペアキーの対応ができない場合もあります。
 - 車体NoからキーNoを調べることはできません。



4. 電池

- 指定の種類の電池を使用する。
- 新しいものと古いものを混ぜて使用しない。（複数の電池を使用している場合）
- ソーラーテールランプの充電電池は専用品です。電気店では入手できません。お買い求めの自転車販売店にご相談ください。

その他

修理について

自転車が故障した場合は、**お買い上げの販売店**に修理を依頼してください。

- 修理が保証の対象になるかどうか（無償修理か有料修理か）は品質保証書の内容に基づき、お買い上げの販売店で**自転車と品質保証書**を確認の上、判断させていただきます。
- **インターネット**や**通信販売**でお買い上げの場合は、それぞれの**販売元**へお問い合わせください。
- 弊社での出張修理やお客様への補修部品の直接販売は行っておりません。

盗難補償について

- 盗難補償を受けられる商品と受けられない商品があります。別冊の品質保証書（ロビンフッド手帳）の表紙に「盗難補償つき」と書いてない自転車には盗難補償はありません。
- 盗難補償の手続きや補償内容については品質保証書をご覧ください。
- 品質保証書を紛失すると、盗難補償は受けられません。

保険について

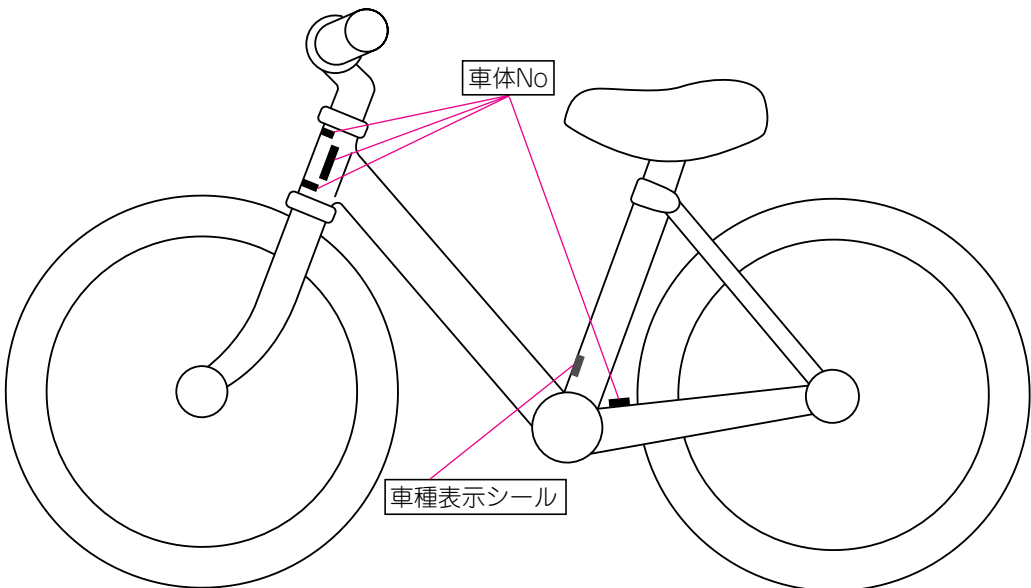
- 事故が起きた時のために、対人対物賠償保険に加入することをおすすめします。（弊社では保険の取扱はしていません）

廃棄について

- 自転車を廃棄するときは、各地区のゴミ分別や回収のルールに従ってください。

「車体No」刻印位置、および「車種表示シール」貼付け位置の例

- 「車体No」および「車種表示」位置の例を示します。商品によっては下図以外の位置に表示している場合があります。
- 「車体No」は販売店で防犯登録をする時に必要です。



点検・修理や部品のご注文は、**お買い上げの販売店**へご相談ください。

ブリヂストンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3丁目1-1

お客様相談室

受付時間：9:00～12:00 / 13:00～17:00

(土・日・祝日及び弊社指定休日は休み)

電話：☎ 0120-72-1911、FAX：048-772-5316
(国際電話・インターネット電話でのご利用はできません)

IA01-094
3, L